

アジアの「タレンツ」が東京に集合！ 未来の映画監督を育成する「タレンツ・トーキョー2023」 == 取材のご案内 ==

- ▶ **早川千絵監督**（カンヌ国際映画祭カメラドールスペシャルメンション受賞）、**石川慶監督**（ヴェネチア国際映画祭オリゾンティ部門ノミネート）らを輩出した映画分野の人材育成事業「**タレンツ・トーキョー2023**」を開催
- ▶ アジアから17人のタレンツによる企画中の映画作品の発表（プレゼンテーション）や、国際的に活躍している映画人によるレクチャーなどを通して世界で活躍していくためのノウハウを学びます

未来の映画祭の受賞者がまた生まれる瞬間になるかもしれません。

是非ともご取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

取材についての概要

1 取材可能なプログラム

(1) オープンデー 11月23日（木・祝）

① オープン・キャンパス：13:00-14:00

講演「アジアの映画サポート」登壇 ビアンカ・バルブエナ氏（ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞）

② 公開プレゼンテーション：14:30-17:40

17名の参加者（タレンツ）は、11月20日（月）よりプレゼンテーション実習、グループ・ディスカッション、各種講義を重ねて、この日トレーニングの一環として、公開型の最終プレゼンテーションに臨みます。

(2) 授賞式及び閉会式：11月25日（土）17:00-18:00

11月23日（木・祝）に公開プレゼンテーションを行った企画のうち、優秀な企画1点を表彰いたします。

2 参加者等への個別取材等

受講者や講師への取材や上記1以外のプログラムの撮影を希望される場合は、別途ご相談ください。

タレンツ・トーキョーについて



タレンツ・トーキョー2022の様子

<取材に関する問い合わせ先>

生活文化スポーツ局文化振興部文化事業課 阿部/田島 電話

令和5年11月9日まで 電話 03-5388-3153 内線 29-460

令和5年11月10日以降 電話 03-5000-5663

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 工藤/圓城寺 電話 03-6256-8432

タレンツ・トーキョーについて

名 称：タレンツ・トーキョー2023 (Talents Tokyo 2023)

期 間：令和5（2023）年11月20日（月）から11月25日（土）まで

※「第24回東京フィルメックス」開催期間中の6日間

会 場：有楽町朝日ホールほか（東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町マリオン 11F）

対象者：映画監督、プロデューサーを目指す東アジア、東南アジアの者 17名

主 催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、タレンツ・トーキョー実行委員会

提 携：ベルリン国際映画祭（ベルリナーレ・タレンツ）

協 力：ゲーテ・インスティトゥート/東京ドイツ文化センター

※タレンツ・トーキョー2023のメイン講師及び参加者については、別紙1をご参照ください。

※終了後に事務局よりスチール画像の提供が可能です。

※公開プログラムの詳細及び取材については、別紙2をご参照ください。

<タレンツ・トーキョー2023に関する問い合わせ先>

タレンツ・トーキョー実行委員会 TEL：03-6258-0333

Email: talents@talents-tokyo.jp ホームページ: <https://talents-tokyo.jp>

※参加者向け（非公開）講義を行う講師のご案内

「タレンツ・トーキョー 2023」 メイン講師



（左から、モーリー・スリヤ氏、ビアンカ・バルブエナ氏、ポーリーナ・ブーシェニー氏、フロリアン・ウエグホルン氏）

モーリー・スリヤ（映画監督・脚本家）

2008年のデビュー作『fiksi.』以来、国内外で数々の賞を受賞。作品は、サンダンス映画祭、トロント国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭など、世界中の映画祭で上映されている。最新作『マルリナの明日』は、2017年カンヌ国際映画祭 監督週間プレミアム上映され、アメリカ、カナダを含む14カ国で劇場公開された。また同作は、第91回アカデミー賞 外国語映画賞のインドネシア代表作品でもある。

現在、ジェシカ・アルバ主演の『Trigger Warning』（Netflix US 配給）と、インドネシアの著名作家であるモフタル・ルビスの小説『A Road with No End』を映画化した『This City is a Battlefield』の2本の監督作をポストプロダクション中。

ビアンカ・バルブエナ（プロデューサー）

フィリピンの制作会社 Anima（旧 Globe Studios）のマネージング・ディレクター。サンダンス映画祭、トロント国際映画祭でそれぞれ受賞した『Lionor Will Never Die』（2022）やエミー賞ノミネート、フィリピンアカデミー賞出品作『The Missing 8』（2021）を製作。Epicmedia Production の元 CEO で、30本以上の長編、短編、シリーズを製作。主な作品として、ベネチア映画祭 Lion of the Future 賞受賞作『Engkwentro』（2009）、ベルリン国際映画祭 銀熊賞受賞作『痛ましき謎への子守唄』（2016）、カンヌ国際映画祭 批評家週間出品『The Manila Lover』（2019）、フィリピンで人気の『運命というもの』（2014）、『Patay Na Si Hesus』（2016）、『女と銃』（2019）、『ファン・ガール』（2020）がNetflixで配信されている（フィリピン限定）。

アジア・フィルム・コミッション・ネットワークのプロデューサー・オブ・ザ・イヤーを受賞し、映画界への多大な貢献を称えられ、アジア・パシフィック・スクリーン・アワード (FIAPF 賞) を最年少で受賞。シドニー、フリブール、シーショーツ、バンコク ASEAN、ダーバンなどの映画祭で審査員を務める。また、ロカルノ・オープン・ドアーズ、タレンツ・トーキョー、ベルリナーレ・タレンツ・ショート・ステーションでも後進の指導にあたっている。

ポーリーン・ブーシェニー（ワールド・セールス）

パリのソルボンヌ大学（D2A）を卒業後、SOFICA（フランスの民間投資ファンド）と COFILOISIRS（銀行）で映画資金調達の実験を積む。2017 年にビジネス担当として CHARADES に入社し、2023 年からは CHARADES の製作活動に対する助成金である CHARADES PRODUCTIONS の共同製作を管理。

CHARADES は、多くのジャンル、監督主導の作品を制作している。今後予定されているプロジェクトは、ヨーロッパとの共同製作作品からエクイティ・ファイナンスの支援を受けた作品まで、また商業アニメーションからジャンルもの、フレンチコメディまで、経験豊富な監督から新人監督まで、多岐にわたる。CHARADES が担当した最近の作品は、カンヌ国際映画祭 ある視点部門 審査員賞受賞 『Hounds』（2023）、『Along Came Love』（2023）がカンヌでプレミア上映、カンヌの ACID 部門で上映された 『リンダはチキンがたべたい！』（2023）は、アヌシー国際アニメーション映画祭でクリスタル賞を受賞した。また 『The Goldman Case』は、2023 年に開催されたカンヌ国際映画祭 監督週間部門で、さらにマリオン・コティヤール主演の 『Little Girl Blue』（2023）も同映画祭にて特別上映される。

フロリアン・ウェグホルン（Berlinale Talents）

フロリアン・ウェグホルン（Berlinale Talents）

ベルリン国際映画祭の人材育成プログラム、ベルリナーレ・タレンツのプログラム・マネージャー。7 カ国に渡り、1 万人の修了生を誇るタレンツ・インターナショナルのアドバイザーも務める。

1976 年、ドイツ・オルデンブルグ生まれ。ケルン大学で Theatre, Film and Television を学ぶ。2002 年にベルリン国際映画祭のジェネレーション部門に参加。2008-2014 年には同部門の共同ディレクター・キュレーターとして、短編・長編含め 60 作品を毎年上映。2012-2019 年には同映画祭のコンペティション部門の選定委員を勤めた。

ヨーロッパ・フィルム・アカデミーの一員としてベルリン国際映画祭以外の映画祭や、フィルム・ファンド、文化施設に携わる。映画と若者に関する出版物をいくつか執筆・編集している。

© photo: Alexander Janetzko

「タレンツ・トーキョー2023」 参加者（タレンツ）

監督：

OATES Yinchao（中国）
YUAN Yuan（中国）
ZHANG Yudi（中国）
Rex REN（香港）
M Reza Fahriyansyah（インドネシア）
村山和也（日本）
中西 舞（日本）
SINN Kirin（韓国）
Sai Naw Kham（ミャンマー）
Treb Monteras II（フィリピン）
LAM Li Shuen（シンガポール）
Steve CHEN（台湾）
Nguyễn HOÀNG ĐIẾP（ベトナム）
VU Nguyen Nam Khue（ベトナム）

プロデューサー：

Lyza Anggraheni（インドネシア）
Angelina Marilyn BOK（シンガポール）
NGUYEN Le Hang（ベトナム）

* 氏名（国名／地域名）

* タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。

* 国名／地域名は出身国もしくは現在の活動拠点です。

* 令和5年11月9日時点の情報であり、変更になる可能性があります。

【参考】タレンツ・トーキョー修了生の主な実績（カッコ内は参加年）

- ・アンソニー・チェン（2010年）監督
『イロイロ むくもりの記憶』カンヌ国際映画祭カメラ・ドール（最優秀新人監督賞）他多数
- ・石川慶（2011年）監督
『愚行録』ベネチア国際映画祭オリゾンティ部門出品、『ある男』日本アカデミー賞作品賞・監督賞他多数
- ・ビアンカ・バルブエナ（2012年）プロデューサー
『痛ましき謎への子守唄』（ラヴ・ディアス監督）ベルリン国際映画祭銀熊賞（アルフレッド・バウアー賞）
- ・早川千絵（2014年）監督 / 水野詠子（2019年）プロデューサー
『PLAN 75』カンヌ国際映画祭カメラ・ドール スペシャル・メンション、米アカデミー賞日本代表
- ・ヨー・シュウホァ（2015年）監督
『幻土』ロカルノ国際映画祭金豹賞（最優秀作品賞）受賞、米アカデミー賞シンガポール代表他多数
- ・小田香（2015年）監督
『セノーテ』芸術選奨文部科学大臣新人賞他多数
- ・ニアン・カヴィッチ（2016年）監督
『ホワイテ・ビルディング』ベネチア国際映画祭オリゾンティ部門男優賞他多数
- ・アマンダ・ネル・ユウ（2017年）監督
『タイガー・ストライプス』カンヌ国際映画祭批評家週間最優秀優賞、米アカデミー賞マレーシア代表

【「タレンツ・トーキョー2023」公開プログラム取材のご案内】

1 取材申込方法

2の公開プログラムについて、取材を希望される場合は、「4 取材における留意事項」にご同意の上、**令和5年11月21日(火)正午**までに、申込フォームよりお申し込みください。

<https://forms.gle/5zp9ocGwAjCXJmSF9>



ご登録いただいたメールアドレス宛に、来場に関する案内をお送りします（前日のお昼頃の予定）。

各プログラムとも開始時刻の20分前より入室できます。プログラム開催中の入退室は自由です。

2 公開プログラム概要

(1) 11月23日(木・祝) 13:00-14:00 オープン・キャンパス

「アジアの映画サポート」をテーマに、講義を行います。

登壇者：ビアンカ・バルブエナ氏【日本語同時通訳あり】

(2) 11月23日(木・祝) 14:30-17:40 公開プレゼンテーション

タレンツが映画業界関係者に対して、自身の企画のプレゼンテーションを行います。

【日本語同時通訳あり】

(3) 11月25日(土) 17:00-18:00 授賞式及び閉会式

公開プレゼンテーションを行った企画のうち、優秀な企画1点を表彰します。

【日本語逐次通訳あり】

※各プログラムはどなたでもご覧いただけますが、入場には申込が必要です。

3 撮影について

(1) すべてのプログラムにつきまして、録音・録画等撮影はご遠慮ください。著作権及び営業秘密保護のため、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(2) 公開プログラム（「オープン・キャンパス」、「公開プレゼンテーション」、「授賞式及び閉会式」）につきましては、事務局よりスチール画像を終了後に提供致します。ご希望の方は、申込フォームへご記入ください。

(3) 非公開プログラムについては、事務局からスチール画像の提供が可能ですのでご相談ください。

4 取材における留意事項

(1) 講師やタレンツへ個別取材をご希望される場合は、タレンツトーキョー2023 広報事務局（株式会社Relays内 担当：田ヶ原 MAIL: emi.t@relays-inc.com 当日連絡先：080-5049-9972）までご連絡ください。

(2) 事業に関するお問い合わせは talents@talents-tokyo.jp（担当：林）までご連絡ください。

(3) プログラムの内容は変更になる場合がありますので、ご了承ください。